特42
456

訂正
觀世流謠曲百拾番

海士

2

海士

出すらん名ぞ三日月のくまなき西の都の西

天地のひらけそめしより恵

ワキサシ

大臣

まうけ給ひし天つ宮や好の古墳

彦海

世ぢとは称すれども三つ島

山

世ぢとの浦彦海とや何

みちくぞしく吹ぬとぞきこえ

明治四十六年 内交 知

ねがき潮前よりて遠善をもおさえ
やと思ふ（ト立元）あらぬ様ならんや
こゝにかくしたる事のすんで
うりみるに（上ニ）はこゝにとゝ
眼めしき（ウヤ）三笠山しとうちえん
此きしのくに南の海よりうちを
ばきに狂あく清水國のぞや見本の
りめあらぬ路のわくりもおちく
ぬ（元ト）その伊よりとあり定めぬ
ぬ風をみのこゝ（ミ）里内市中恵比寿
ものや濱州者との浦よりはなをて
よ（元ト）あきをれ男女老若をもて
をと一人乗りの船を御仕立て此
所の謂を妻は寿あるをもてみて
海士芸のもの（イヒテ）もよを生よあらぬ

我らあらしの浦に
とまり浦寺ちかきに
つ宮人海人のくらやかたふ
伊勢をのあまはかりとのみ
山の月をまち濱荻の風よ秋をさそ
ぞ人の海人塩木をもこり
桜をおりそへて
ぞ言を忘れぬたより

きあらよ浦みて
みあ風の音ぞ
あ伊をみるあかつよう
ふき風のくぶ塩海かきて流
あ世をわるさあれば
ともしひかきあ風のはちよう
ら愛く早内かすよ昼かぬとは浦

浦の海士のうかひ（テイ）けんの洗ふらの
うつさの海士のくら（ヲ）かつきれ塩あらは
ばの水底のたくるめと前て手ちきく
痛（テイ）りや棹つりれ船よそまを左まよ
りや我と母と宝とやが泣いやしき
異舎れてよぶ（ヲ）きや雲のうへ人と
みるめ乱れ人（ヲ）がる迷も苅洗ひるめを
乱れ人（ヲ）いやくさ棹の為よそ苅
ばの水底の月を沖船生れよみるめ
ちきりて障とあれば苅ひきよとの
市渡苅り 拇（テイ）宮月れためこりれ
きよとの西諾りや昔もちため
あり明珠をてひたきよて龍宮
とれ（ヲ）ちぶ（ヲ）つきあきも洗れ

上ノ
あ風ニ月もこう塩ノくみうめを
ハ、ハ、ハ、ハ、ハ、ハ、ハ、ハ
いりやかうよ 宇内 猩々と明珠をうつさ

あまもも洪浦の海人ハ
宇内 けんん洪浦の海をみてゆきあまの
宇ニテ 里をいあ風の宇と申てかの海人
つ伊ゆひ在前をみてゆ長なる
鴻ハ明珠をとりあを始てみそめ

ようこく新しきたま鴻と書て新
珠海とよん 宇内 拘其玉のなをハ何と
宇ニテ 玉中ニよ釋迦乃像ま
まひ宇ニテ いつたよりあをなれ同面
なるようて面てをむてようを
宇ニテ ひとかいこく面向不宜ハ珠とよん
かほとは寶を行とて漢弱ようも

わたつみ（海）
はらへ（祓）
はらへの大臣法海五
はらへ妹宮もろこし高宗皇帝の后な
ほ〻粉給ふ御きはまり法氏寺おき
もとゝ興福寺へ三の左ゝをわる
はりあ〻花厚磬泗濵石面向不肖の
玉ゴ二の左ゝ八京ゑし明珠八てれ
沖なて龍宮へとゝ八ゝ大臣ちゝを

やつし洗浦より下ゝ給ひ賜ひしき海士
をとめともきりとめぞとりの法子を
まうく〻庵の房湾の大臣昌おを
屋（大臣）の昌てゝうゝあきの大臣よおゝ
おつゝの御庵人や物ゝかゝりと人
あゝ（ミテ）行ゝおやゝ人ゝなゝゝゝと社
思りつゝよ拙ゝ法のよてひひゝる

うやあら侘あやな　大臣
だうら大臣
はるとはまれめぐくまひらきし藤門
ざしたる心よりくらうの泥えのうらく母
はらひあら附傍をかうしていたく
ぞれくもれ母の濱州ちとの浦傍傍
のあまりやきを焼き有とてとい
とのことばりていらやしき海士乃子

上臈　ざいのめのまらるやとうきるそや
ようとうしとそてもつきるようくだり
宿るも月れや元雨露の恩よおらひ
やとぶいい寿ばは寿りうり長きうれ
あ海人やとまあるもを流ひ
上臈　実心あさうり海衣だりてもぬらひ
秋独とべかさはらくたほまきとやそれお

ゆかしうやうやうかくる貴人のいやきき
の脇にぞ宮ア仁なほも一世まうしたと
を宮月のいとなみようつりて光陰を
まうしてくまうでもをもあ兎
ぶ孫とてえやはんなでかしもまろう
や秋君ぬがりよれたり裳の袋峡
門の口を因てべきや水鳥はは立
ぬ人をなくなくまう中将迎乃ろよ
御ぬをうつきあもき前をば前みて
そまあつてはめよ鏡入はけらへ
そと仮あつてはめこかきへし基尚
あ仮人やうぞもし洗ぬをとりひろう
ぶ仕子をゆつきの乃御位よあ絵
やをやしうぶ子細あらと領学し

行ひ拙者親子はよもてん命つゝ
狂も惜しと千寿乃縄をとり
よつきぢ洗ひをとりえたらば洗
おもとうこうひろ婆とき人を
もとうへぶらあきらへと約束し
ぞうつかまきんを抜きつて海底よ
まいれいぞいひをつゝ雲の浪煙の浪

をたつきつぶいまやくとわきいり
て直下とこれ海底へ過うも去
ら海底よぞそ外家さいさし
も歌えんすい家宮あり。て能音
宮よりて宮中をれいうの高
さ三十丈乃ゑ塔よりのそまをとめ
おき香花をうあへ母護神をぺ

龍并居うり具外悪魚鱠ばかり
きかしや我命ばかりを恩愛の古
郷のかうを忘しきぶりあんのあ
ありあうん我子いあらん父上もた
ちひらやりうあらくも洗まうぶれ
果あんやけりとと深くみうたちた
又思うきりて手をあちきを南無や

志渡寺の観音堂の力をあうや
てたひらとてやだ悲の利剣を頭よ
あて龍宮の中よりひいれなぎを
ちつとうのいうきる昌陸よ寶
殊をぬもんをてやなきんとすきハ母
讓并おつく勇うたたみし事お
れぞ持うつうきをえおり乳乃

[illegible]を押てめ劔を捨て
[illegible]たりときく龍宮のおひなを死
人をいめしめ[illegible]りよりちりく惡龍
あり約束の縄をとりてきびゝ牧方
に[illegible]きりくりおいたちひ海人ハ
海よりひいてうかくてう
ひいだたきもの惡龍のもとにみて
[illegible]もつひあきよりたりぬ
もいつよりありめしもむりく
かきりとぬ屋ありけさ[illegible]ぬとき
息れたりやう我乳ありを
出産きとありぬ[illegible]も劔ありたる
[illegible]りぬ其ありよりり光明りくやく
ちりおもをとり出ひ拔ちり御手も

約束のごとく洲浦のなよせて房総
の大海とハやせじとハ行せそうつむき
中ロハ
ぬしてそうはうの母あ尼人の幽霊よ
下同
光筆のあとを見てぶつんを
中ヨル下
おさえて吊らへやべうかうそうあい浪
ばらそうちきれ夢人のごりきく
やしきそうち鳴り牡や子乃奥里

あさはほの浪のそうそよぶつきり
立浪乃はるまよよきり
おまりよりしき水ちりまてはるよ
ばを命をそうちそうち流きそう
もおなてん
ひらきてれハ流によさうて一十
三年骸を白沙ようつむく日月の

世をも冥路あんくたり我を
ゝ毎人有て冥奉行たちの冥
闇をたゞよ宮それより八十二年
ちくいうゝ有ぶいさゝゝ
洪寺のでゝろ手向くさ
花の蓮の妙經をこの善を
ゝ
ゝ
ゝ

謹

咸恭敬ちうけたまはり淋漓や那
ト云テ
ち上
ハ洪誓の德を讃めたゝへ天龍八部
人與非人皆爲見佛龍女成仏相
讃州志度寺とかうし每年八講
那菩乃勤行仏法繁昌乃奚地と
成そこ乃者諸とうきをなり

右之本者觀世太夫織部以章句
眞本令版行畢
天保十一庚子歳孟春改正再板
皇都二条通御幸町西江入町
旧
山本長兵衛

明治廿六年二月十七日印刷
明治廿六年二月同日訂正出版
明治廿六年三月廿九日別製本御届
定價三錢五厘
東京市麹町區飯田町四丁目壱番地
宮内省御用達
訂正者 觀世清廉
京都市上京區二条通御幸町西一番
發行者 檜常之助
印刷者

板權所有